

奈良県の金魚について

歴 史

- ・1724年（享保9年）に藩主柳沢吉里公が甲斐の国（山梨県）から大和郡山に移封されたときに趣味として飼育していた金魚を持参し、邸内で養殖したのが始まり
- ・金魚養殖は幕末には藩士の副業、明治時代以降は農家の副業として拡大



恵まれた環境

- ・大和郡山市には金魚養殖に適した水質・水利に恵まれた農業用の溜池が多くあった
- ・溜池に発生するミジンコ類は金魚の稚魚の餌として適していた
- ・このような環境に支えられて、全国有数の金魚の産地となった



産 業

- ・金魚すくいで馴染みのある和金を中心に出目金、コメット、オランダシシガシラ、琉金などが生産されている
- ・令和7年度の販売数量は4,490万尾※メダカ含む
- ・国内だけでなく、海外への輸出も行われている
- ・全国金魚すくい選手権大会や金魚品評会が開催され、地域の文化として親しまれている



養殖のながれ

